

特定非営利活動法人自遊の広場 令和2年度事業報告書

1 事業の成果

年度当初から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、法人全体の動きや小規模多機能居宅介護サービスが限定的にならざるを得なかった。

経営的には、法人会計の95%を占める小規模多機能すずかけの家の引き続き苦しい台所事情に規定されたといえる。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

ア) 小規模多機能型居宅介護の運営に係る事業

○内容

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・蔓延防止対策として、うがい手洗いの励行、マスク着用、発熱者の利用制限、食席や座席の切り離しと飛沫防止パネルの設置等の措置をとった。幸いにして、現段階まで感染者は出ていない。
- ・利用者の好きなおでかけ、外食等は殆どできなかった。代わりに、園芸を含むモノづくり（マスク、手芸品、芸術作品等）や体操などの活動が活発になった。特に作品の多くは、藤野駅前の観光案内所「ふじのね」で販売し、売り上げをおやつ代等で利用者に還元している。
- ・すずかけの家が運営に参加している「RUN 伴」は中止となり、認知症カフェ「ゆずカフェふじの」は、リモートというお年寄りには馴染みの薄い方法での開催となった。

全体的に見ると、利用者は常に定員一杯で、新利用者もすぐにメンバーの一員となることができた。活動が制限された一年だったが、利用者のモチベーションも維持できている。ただ、お出かけの楽しさを味わえない新利用者には、気の毒な年だった。

経営的には、処遇改善加算ⅢがⅠになったおかげで、職員の賃金（ベースアップ及び一時金）が増額した。喜ばしいことだが、人件費用の財源なので他の一般事業費には使えない。

また、介護度による介護報酬の差は著しい。要介護5だと、ひと月の介護報酬は約30万円で3人（という時代もあった）だと約90万円の収入となる。それが要支援2だと約9万円で3人では27万円となり、要介護5より63万円少ない。事業所は、介護度によって利用者を選べない。今の平均介護度は1.3であり、せめて2.0にしたいという課題は、継続中のままである。

○日時：通年

○場所：すずかけの家及び訪問家庭、外出先

○従事者：のべ3,575人

○受益対象者：のべ5,097人

○支出額：43,701,883円

イ) お楽しみ講座「じじばば自由大学」の運営

○内容・日時：元気を祝う会（敬老会）（9月22日）、みそづくり（3月16

日)

毎年2、3月に開催している地域の人を招いての「津久井在来大豆の味噌作り」は、新型コロナウイルス感染防止のため利用者と職員のみとした。

○場所：すずかけの家

○従事者：40人

○受益対象者：37人

○支出額：0円（今年度は、上記アより経費を負担したため）

ウ) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

◎住宅型有料老人ホームの運営に係る事業

○内容：令和2年度事業計画に入れていた「住まいづくり」は、藤野地域名倉の一般住宅を12月より賃貸契約した。「やまぼうしの家」と名づけ、住宅型有料老人ホームとして開設すべく、改修工事（バリアフリー化・防災設備等）や定款変更、市との協議等を進めた。

家にあった中古家具販売を行い、資金集めと同時に地域に周知する機会にもなった。掃除や修理、上記販売活動等、多くのボランティアの協力を得て、開設準備をすることができた。

また、地元自治会に正式加入し、近所との日常的な関わりができています。改めて、藤野の地域力を感じさせられている。

○日時：7月～3月

○場所：やまぼうしの家

○従事者：15人

○受益対象者：準備期間のためなし

○支出額：866,381円

◎農園、訪問庭事業を主にしたフレイル事業

○内容：要支援になってはいないが、心身ともリフレッシュして機能低下を防ぐべき層の人々は「フレイル」といわれている。この里山にふさわしい「訪問庭事業」と「実験農場づくり」を志向したフレイル事業を開始した。

初年度は、計画・話し合いから始め、すずかけの家の庭好き利用者宅で訪問の一環として庭づくりをサポートした。また、すずかけの家の庭スペースの整備等をした。夏野菜の育苗のための温床作りも手がけた。冬には、大量に頂いた資材で、農園予定地に広大な動物除けの柵を作った。弁当持参での職員・ボランティアによる自主的活動である。

次年度からの本格的な事業開始に向けて、「訪問庭事業」のパンフレットを作成中である。

篠原地域が市の里山のモデル地区に指定されたこともあり、今後の繋がり方を模索したい。なお助成金を獲得したことで、活動に弾みがついている。

○日時：6月～3月

○場所：すずかけの家、すずかけ実験農場及び訪問宅（藤野地域）

○従事者：10人

○受益対象者：20人

○支出額：3,689円

◎イベント事業

○内容・日時：新型コロナウイルス感染症の影響により、「瀧川鯉昇落語会」がすずかけの家オープン以来初めて中止に追い込まれた。「ぐるっとお散歩篠原展」は2年連続中止となった。一昨年独自に行った「すずかけ縁日」も開催できなかった。近隣の「のびるっこ保育園」にも気軽に行けなくなるなど、事業としての地域交流は苦難を強いられている。

それでも地元陶芸家を招いての陶芸教室を開催した（9月30日）。また、藤野のアーティストと福祉関係者の共催による「いろとりどり展」に参加し、すずかけの家の利用者の作品も展示された（10月31日～11月12日）。

これらの創作活動が、その後の活発なモノづくり活動に繋がったといえよう。

○場所：すずかけの家及び藤野地域

○従事者：25人

○受益対象者：230人

○支出額：10,578円

(2) その他の事業

なし